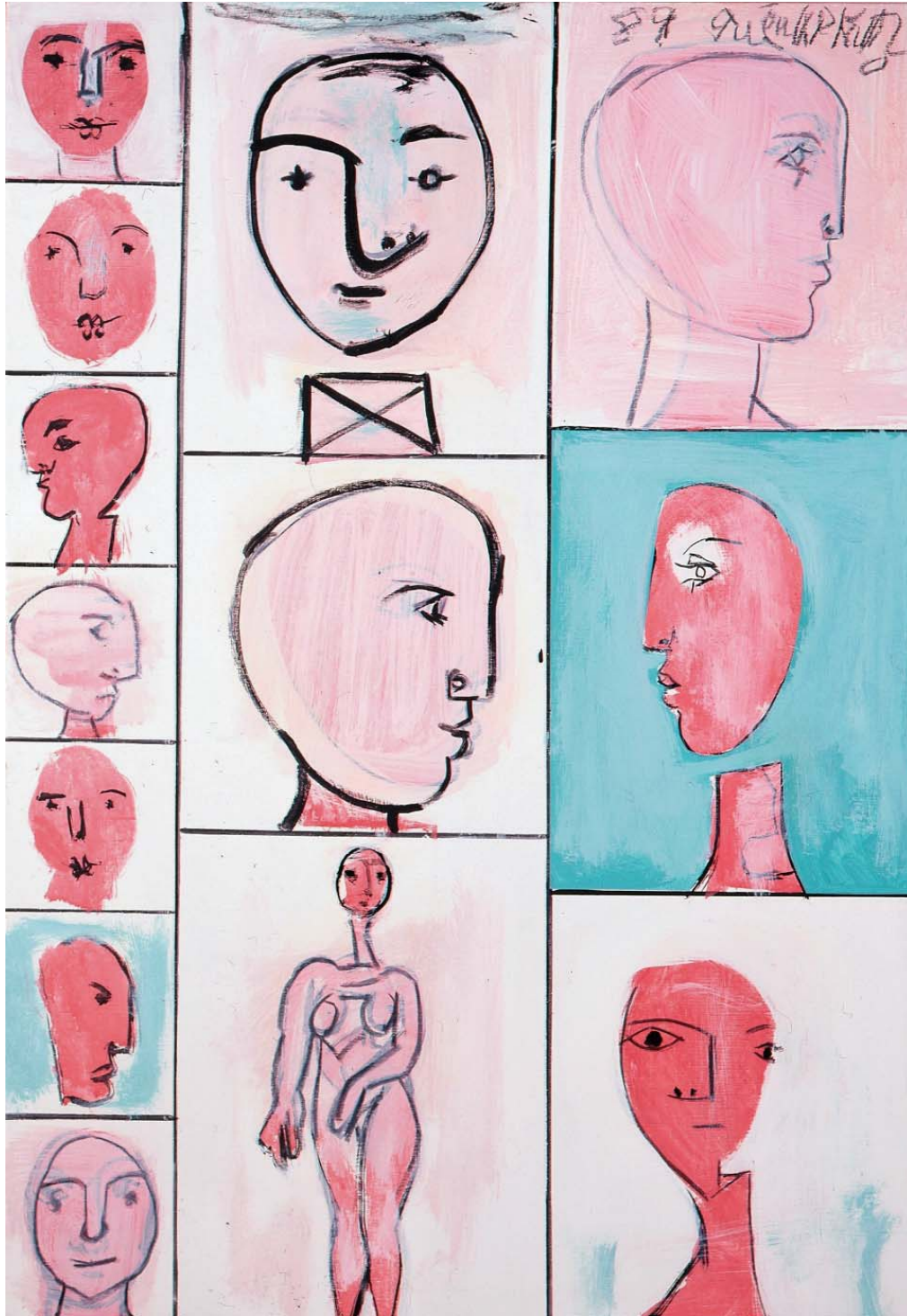


The Kagawa Museum NEWS

香川県立ミュージアム
ニュース
2013.Jun 夏号

Vol.21



猪熊弦一郎「Faces13 No.1(イサム・ノグチに捧ぐ)」1989年 アクリル、カンヴァス 当館蔵
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

CONTENTS

- 調査研究ノートVol.15「法然寺調査、その後」———— p2~3
- 特集 子どもミュージアム in 歴史展示室「れきしに一步近づく夏」———— p4
- 展示室だより「風土を知る・風土を記す」「瀬戸内国際芸術祭2013、そしてミュージアム!」—— p5
- ミュージアム・ガイダンス⑩「講演会・講座を楽しもう」———— p6
- ミュージアム人物伝「県展創設と香川が育んだ作家たち」———— p7

法然寺調査、その後

調査は進む

県立ミュージアムが進めている法然寺(高松市仏生山町)の調査については、2年前のニュース13号で法然寺の歴史や特徴、三仏堂本尊の調査成果など第一報をお伝えしました。その後も調査は着々と進み、当館の目指す寺社総合調査の名のとおり法然寺を多角的に読み解いていく調査となってきました。今回は第2弾として、境内の測量や建造物調査、石材調査、発掘調査の様子についてお伝えします。

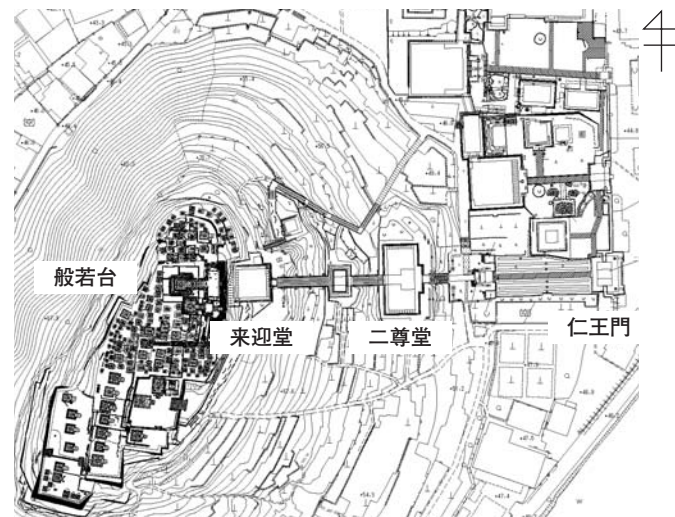


墓塔の林立する「般若台」

基礎資料の完成 —測量調査—

建造物などを調査しようとするまずこれらの配置がわからないといけません。この2年をかけて法然寺境内や山上の高松藩主松平家墓所である「般若台」の測量を行いました。この測量図自体が法然寺を対象とする今後のさまざまな調査研究の基礎資料として画期的な成果なのですが、図をじっと見ていると法然寺がどのようにつくられていったのかわかってきます。

高松に入部した初代藩主松平頼重には、一族の墓所とその菩提を弔う寺をつくるに当たって構想(石材調査の項で後述)があり、それを実現するための地形が必要でした。図を見ると、法然寺の場所にはまさにそのための地形があります。東に尾根がのびる小高い山と、その尾根の下に2つの池にはさまれた一本道です。この地形に重なる部分が最初に整備されました。一方、図を見ていくと、建物の並ぶ方位によりグループ分けができます。これらは整備された時期が何段階かに分かれるためでしょう。また般若台に林立する約200基の墓石の調査結果からは、初期は藩主墓の周りに家族の墓が隙間なく立てられていたものが、後世には藩主・藩主夫人の墓域と家族の墓が完全に切り離されていったことがうかがえます。

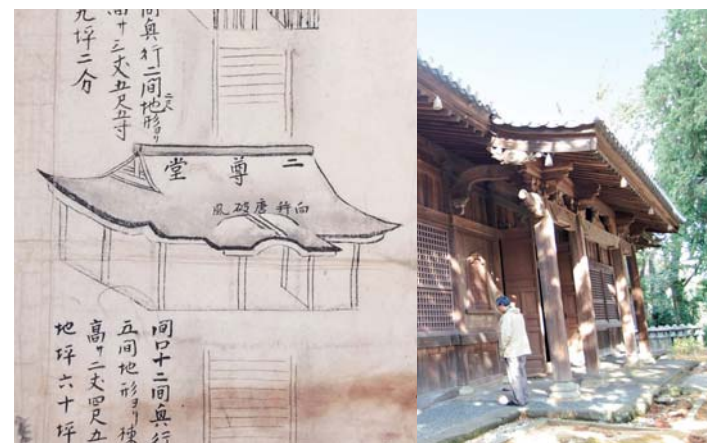


測量図(部分)

軸組みはもとのままに補修を重ねる —建造物調査—

仁王門～来迎堂ラインにある二尊堂・来迎堂の調査を行いました。その結果、柱から屋根に至る軸組みは法然寺創建当時に近い時期のものである可能性が高まってきました。椽皮葺を瓦葺にしたり、屋根の勾配や建具を替えたり、他の建物の部品を持ってきたり、窓を付けたりとさまざまな補修や変更が行われています。特に二尊堂正面に屋根から底のようにせり出した向拝の形は、唐破風から葺き降ろしに大幅に改変されています。

これらの建造物の年代はまだ確定しておらず、今回の調査でも残念ながら、棟札や年代を特定できるような墨書は見ませんでした。今後は古文書調査で建造物に関する記載を探し、少しでも建築年代を限定していきたいと考えています。



二尊堂の向拝の改変
(左)江戸時代前期の絵図(法然寺旧境内御朱印附属絵図面(部分)、法然寺蔵)では唐破風(右)現在は葺き降ろしに変わっている。



不規則な波上に風化した豊島石の階段

豊島石から見える法然寺の姿 —石材調査—

建造物の基礎や石段にどんな石が使われているのか、ふだんあまり気にしませんが、使われる石にも地域性や流行があります。江戸時代には豊島や屋島などで産出する豊島石が西日本の広範囲で流行し、法然寺でも石段・敷石を中心に多く使われています。

この石をたどると、先に述べた初代藩主頼重の法然寺への構想がわかってきます。東端の地藏堂の豊島石石段をスタートに現世と浄土をつなぐ一本道を歩き渡り、途中珍しい豊島石の玉垣を見つづ足元の豊島石の石段を辿っていくと、山上の来迎堂に至ります。そして奥の山頂には初代藩主松平頼重の墓があります。頼重は西の山上に来迎堂を配置し、東からそれに



浄土への道を地上に再現し、自ら「般若台」の中心にある高松藩初代藩主松平頼重の墓

向かう参道を設けることにより、極楽浄土への道を再現したのです。また来迎堂の奥に自らの墓を築いたことは極楽浄土へ迎えられたことを表します。そして、般若台に葬られた松平家の人々の菩提を弔うために、法然寺を築いたのです。

拝殿域の拡大が判明 —発掘調査—

頼重の墓は墓所内でもひととき大きな面積を占めています。江戸時代の絵図から、墓の前には拝殿が作られていたことがわかっています。この地点で発掘調査を行い、ある時期に面積を広げる形で拝殿が建て替えられた可能性が高いことがわかってきました(現在の拝殿跡が拝殿として建てられたものかは未解明)。

調査は来年度まで続き、その後は報告書をまとめる予定です。法然寺の全容解明にご期待下さい。

(古野徳久)



真剣、でも楽しい発掘調査

子どもミュージアム in 歴史展示室 れきしに一步近づく夏

歴史展示室が期間限定[7/19(金)~9/23(月・祝)]で子どもミュージアムバージョンにかわります。

当館3階には、約1,200㎡の大空間に香川2万年の歴史がぎっしり詰まった歴史展示室があります。実はここ、香川県の歴史を扱う、県内最大の展示室なんです。

実物大復元あり、映像あり、たくさんの展示資料ありと盛りだくさんの展示室ですが・・・子どもたちにとっては少々ヘビーかもしれません。校外学習で見学に来てくれる小学生たちも、限られた時間ではじっくり資料を見て内容を理解するのはなかなか難しそうです。

そこで、今年は、夏休み中の子どもたちのために、展示方法や解説の内容を工夫して、歴史展示室をアレンジします。

いつもはちょっと難しく感じてしまう歴史の世界に一步近づいてみませんか？

期間限定です。この機会に是非お試しください。



歴史展示室の様子

行 | 事 | 案 | 内 |

見るだけじゃない！ 「ミュージアム特別授業」

ミュージアムならではの、展示室で実物資料や複製品を使って授業をします。

- 8/10(土)、8/13(火)
 - ① いろいろな土器を調べよう 10:00~
 - ② 実演 江戸の発明品 11:00~
 - ③ もっと近づく高松城下図屏風 13:30~
 - ④ 実演 江戸の発明品 14:30~
- ②④は同じ内容です。



久米栄左衛門作
扇風機(高松松平家歴史資料)
江戸時代の発明品。複製品を使っ
て仕組みを学びます。

3階歴史展示室
申込不要/参加無料(要観覧券)

ボランティアが学びと遊びをサポート

- ① むかししらべおたすけ隊
ワークシートを使った展示室の見学をボランティアがサポートします。
7/20(土)~9/1(日)の毎週土曜日・日曜日 ※7/27(土)は除く
13:30~16:00(随時)/3階歴史展示室
申込不要/参加無料(要観覧券)
- ② むかしあそびたいけん
メンコ・お手玉・あやとりなどボランティアといっしょにむかしの子ども
のあそびを体験します。
8/12(月)、8/16(金)
各日10:00~12:00、13:00~15:00(随時)
3階歴史展示室入口前
申込不要/参加無料(要観覧券)

「ミュージアムれきしたんけん」

7月27日(土) 13:00~16:00(随時) 受付は15:30まで
8月17日(土) 9:30~12:30(随時) 受付は12:00まで
詳細は本紙8頁をご覧ください。

ここに
注目

こだわりの「実物大復元」

各時代のコーナーには歴史を実感できるように実物大復元の展示物があります。縄文時代の森や、江戸時代の家にあつた土蔵、ちょっとレトロな昭和の住宅・・・これらは単なる作り物ではなく、県内の遺跡や旧家の調査で得られた情報を随所に盛り込んで、リアルに再現しています。隠れたこだわりポイントを特別に教えます。



戦後の住宅 台所



縄文の森と竪穴住居

夏から秋 常設展と特別展のご案内

風土記編纂1300年記念

風土を知る・風土を記す

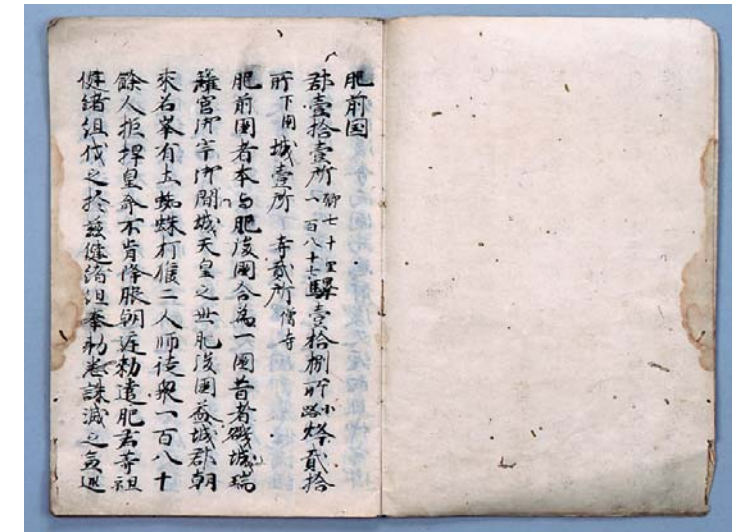
常設展示室1
6/6(木)~7/10(水)

和銅6(713)年、時の元明天皇は、国内の産物、土地の状態、山川原野の名前の由来を調べ提出するよう諸国に命じました。地域について知ることは、その地域を治めていることを意味し、権力者にとっては重要なことでした。

諸国が提出したその記録は、後に「風土記」と呼ばれるようになります。そう、今年はその風土記が編纂されて1300年目にあたります。

当館ではこれを記念して、収蔵する国宝『肥前国風土記』を特別公開するとともに、「風土」についてさまざまな観点から光を当て、香川の風土を記し、描いてきた資料を通じて、地域に注がれたまなざしを紹介します。

■ミュージアムトーク 6/15(土)、7/6(土) 13:30~



国宝 肥前国風土記(個人蔵 当館保管)
奈良時代の記録を伝える貴重な写本。現在残る5つの国の風土記のひとつです。

瀬戸内国際芸術祭2013、 そしてミュージアム!

3年ぶりに開催されているアートの祭典、瀬戸内国際芸術祭2013。春の期間に、全国から会場を訪れた方は前回は上回るペースです。

夏の期間、当館を会場に、瀬戸内の視点から丹下健三氏の建築・芸術の理念を読み解く展覧会「丹下健三 伝統と創造 ~瀬戸内から世界へ~」が開催されます。また会期中、小・中学生対象のワークショップ「わたしたちのケンチクでつくる、ネオ・シティー」を開催します。(詳細は本紙8頁をご覧ください。)できあがった作品は、当館に展示する予定です。

そして、秋の期間には特別展「たのしむ日本美術 サントリー美術館コレクション」にて、江戸時代を中心とした美術をご紹介します。現代美術とはひと味違う伝統美を、新たな目線でご鑑賞ください。お楽しみに。

■瀬戸内国際芸術祭2013 丹下健三生誕100周年プロジェクト

丹下健三 伝統と創造 ~瀬戸内から世界へ~

主催:丹下健三生誕100周年プロジェクト実行委員会・香川県ほか
7/20(土)~9/23(月・祝) [7/20~9/1は無休。]
9:00~20:00(7/20~9/1)、9:00~17:00(9/2~9/23 金曜日は19:30まで。)
※入館は閉館の30分前まで。

■瀬戸内国際芸術祭2013連携事業

たのしむ日本美術 サントリー美術館コレクション

10/5(土)~11/17(日) 9:00~17:00 金曜日は19:30まで。※入館は閉館の30分前まで。



香川県庁舎写真 photo三嶋利博



花下遊楽図屏風(部分) サントリー美術館蔵

講演会・講座を楽しもう

ミュージアムといえば展覧会、と思われがちですが、楽しみ方はそれだけではありません。当館では、展覧会とは別に、聴く、作るなどの体験を通して皆さんの学びや創造のお手伝いをする事業も行っています。ここでは、その中から講演会・講座についてご紹介しましょう。

講演会 [年間3回程度]

講演会は、香川の歴史・芸術や展覧会にかかわるテーマについて、館外の研究者や作家の方々にお話しいただく催しです。

最大の魅力は、その道の第一人者のお話が聴けること。昨年度は、漆芸作家で人間国宝(蒔絵)の室瀬和美先生をお招きし、講演とともに制作工程の一部を見せていただくという新たな試みも行いました。繊細な技はもちろんですが、思わず会場が静まり返るほどの緊張感、同席して初めて感じる事ができたもの。制作現場の雰囲気、少しでも体験する機会となりました。



スクリーン画面に映し出された室瀬先生の筆先の動きに息をのむ会場。

講座 [年間7回程度、分館：れきみん講座は3～6回程度]

講座では、当館の職員が香川の歴史や芸術の魅力をお伝えします。館藏品や香川ゆかりの資料・作品を使いながら、より身近なテーマをとりあげるのが講演会との違い。すべて当館オリジナルの、香川から発信する話題です。

昨年度は、NHK大河ドラマにあわせて4回連続講座「源平合戦と香川」を開催したところ、平均約150人の参加者でにぎわい、分館瀬戸内海歴史民俗資料館での崇徳上皇に関する2回講座も盛況でした。連続講座では、歴史や美術など多分野

の専門が集まる当館の特徴を活かして、ひとつのテーマを多角的な視点から紹介します。今年度のシリーズ講座「瀬戸内海一海と人の歴史」も、ぜひお楽しみください。

ミュージアム・プレゼンテーション [年間1回]

もうひとつご紹介したいのが、この新企画。展示に比べてなかなか知る機会が少ない調査研究の成果を、制限時間ありのプレゼンテーション(発表・報告)スタイルで紹介しします。

初回となった昨年度は、異なる分野の報告を集めた15分5本勝負! 忙しいなど反省点も多々ありましたが、地域と密につながる視点からの報告に、参加者からは当館の調査活動を応援する声をたくさんいただきました。いつもの講座とはひと味違う、現場からの新鮮な情報、メッセージを今年度もお届けします。乞う、ご期待!



「調査の現場では、あなたも主役!」と熱く語る発表者。

最近、リピーターの方も増えてきた講演会・講座事業。その醍醐味は、参加してみなくては体験できません。何事もまずは最初の一步から。当館では、今年度もオススメのプログラムを用意して皆様のご参加をお待ちしています。

今年度の講演会・講座については、本紙8頁および当館ホームページなどでご紹介しています。

県展創設と香川が育んだ作家たち

夏の訪れと共に開催される「香川県美術展覧会」。毎年、楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。

今年で第78回を迎える香川県の県展。実は、全国でも最も古い歴史をもっています。

県展誕生のきっかけは、昭和9(1934)年2月、当時の香川県知事木下義介と、東京で活躍する香川県出身作家たちとの懇談会でした。木下知事は彼らに香川の工芸振興のための指導を依頼。彼らの中央での活躍を郷土に還元できる提案を求めました。



第1回香川美術総合展覧会の開催を伝える。「香川新聞」昭和9年5月1日付より

この懇親会に出席した作家たちは日本画の広島見甫、洋画の小林萬吾、彫刻の国方林三、小倉石一郎、池田勇八、藤川勇造、新田藤太郎、工芸の北原千鹿。彼らは後進の育成を目的に、自らの作品を香川で展示し、香川美術界に刺激を与えようと県主催の美術展覧会を提案します。

当時、日本の美術工芸界では、香川県出身の作家たちが大きな存在感を示していました。その背景のひとつが、明治31(1898)年創立の香川県工芸学校です。日清戦争後、地方の手工業、工芸の振興を目的に、石川、富山、香川、佐賀の各県に工芸学校が次々と創立されました。もともと香川は漆芸や一刀彫などの工芸が盛んでしたが、工芸学校は、産業としての工芸に携わる人材育成に貢献すると共に、創作活動を目指し東京美術学校へ進学する学生たちを輩出しました。

前述の懇談会に出席した作家たちの多くも、香川県工芸学校を経た東京美術学校出身者であり*、文展・帝展など全国的な舞台で活躍していました。県展の発起人となった彼らに続き、日本画の高田美一、洋画の猪熊弦一郎、柏原覚太郎、工芸の大須賀喬、磯井如真らも創設期の運営に加わりました。

懇談会からわずか3ヵ月後の昭和9(1934)年5月1日～10日、現在の県展の礎となる記念すべき第1回「香川県美術総合展覧会」が開催されました。(県展が現在の名称になったのは、



第1回展の会場風景(於高松三越)。彫刻や絵画が所狭しと並ぶ。「香川新聞」昭和9年5月2日付より

昭和18(1943)年に行われた第9回以降。)会場は高松三越で、日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門109点を展示、当時の新聞はその様子を「初夏に咲き誇る讃岐美術の花園」と紹介しています。

その後、県展は第2回より公募・鑑査方式となり、地元で活躍する作家の発表の場、そして若手作家たちの登竜門としての役割も担いました。香川県ならではの環境が育んだ在京の作家たちは、県展を通じ香川の美術工芸の振興に刺激を与えました。また、彼らが帰郷する機会は、改めて地元香川の美や魅力に触れるきっかけにもなっていたようです。

(稲葉麻里子)

*懇談会出席作家のうち、小林萬吾、池田勇八、国方林三は香川県工芸学校出身ではありません。小林は琴平の明道学校を経て黒田清輝らに師事し、池田は琴平工業従弟学校、国方は富山県工芸学校を経て東京美術学校へ進学しました。



第1回展に出品された藤川勇造の「海鳥を射る」(当館蔵)。藤川は彫刻部門の委員を務めた。

【参考文献】

『県展史』香川県文化会館編 1985
『近代洋画・中四国の画家たち展』香川県文化会館編 1995
『納富介次郎と四つの工芸・工業学校』佐賀県立美術館・高岡市美術館編 2000

キッズワークショップ

◎『わたしたちのケンチクでつくる、ネオ・シティー』

特別展「丹下健三 伝統と創造 ～瀬戸内から世界へ～」関連行事
ダンボールで自由に作った建築を、みんなで並べて新しい都市を作ろう！
日 時：①7月21日(日)13:00～16:00
②8月8日(木)13:00～16:00
講 師：香川県建築士会会員
対 象：小・中学生(小学3年生以下は保護者の同伴が必要)
定 員：各回20名
募集期間：①6月18日(火)～7月12日(金) 必着
②7月2日(火)～7月22日(月) 必着
参 加 料：500円

◎『ミュージアムれきしたんけん』

「子どもミュージアム in 歴史展示室」関連行事
ヒントを手がかりに歴史展示室を探検！資料の中から“歴史”を見つめる楽しさを体験します。
日 時：7月27日(土) 13:00～16:00(随時) 受付は15:30まで
8月17日(土) 9:30～12:30(随時) 受付は12:00まで
対 象：小学生
受 付：終了時刻30分前まで3F歴史展示室入口にて受付(事前申込は不要)
参 加 料：無料(要観覧券)

◎『子どもびじゅつかんしょう教室』

かんじる・みる・おもう・つづやく・たしかめる。子どものための作品鑑賞会。
ゆったり、ゆっくり楽しんでみませんか。
日 時：7月31日(水)【小学3～6年生コース】
①10:00～ ②13:30～ ③15:00～(各回約40分)
8月11日(日)【小学1・2年生コース】
④10:00～ ⑤13:30～ ⑥15:00～(各回約40分)
講 師：当館職員
対 象：7月31日(水)は小学3～6年生、8月11日(日)は小学1・2年生対象
定 員：各回10名 ①～③、④～⑥は同じ内容です。
募集期間：①～③ 6月18日(火)～7月12日(金) 必着
④～⑥ 7月2日(火)～7月22日(月) 必着
参 加 料：無料

◎『料理を通じて知る戦争(すいとん編)』

物資の少なかつた戦時中にお米の代用食として食べられた「すいとん」を作ります。
石臼いしうすを使ったり体験談を聞いたりして、当時の暮らしにふれてみよう。
日 時：8月4日(日) 10:00～12:00
講 師：当館職員、当館ボランティア
対 象：小学生(小学3年生以下は保護者の同伴が必要)
定 員：18名
募集期間：7月2日(火)～7月22日(月) 必着
参 加 料：300円

◎『屋島の模型をつくろう ミニチュア模型でつくる香川の文化財』

源平の古戦場として有名な屋島は、国の史跡であり天然記念物です。屋島の模型作りを通して、その歴史と風土について知ろう。
日 時：8月18日(日) 13:00～15:30
講 師：当館職員、当館ボランティア
対 象：小・中学生(小学3年生以下は保護者の同伴が必要)
定 員：18名
募集期間：7月2日(火)～7月22日(月) 必着
参 加 料：100円

現地研修会

◎『陶芸工房見学』

工房を訪ね、さぬきの陶芸についてお話を伺い、ろくろを使って制作します。
できた作品は、後日当館にてお渡しします。
日 時：9月15日(日) 13:30～16:00(現地集合・現地解散)
場 所：高松市高松町 さぬきのやき 伊藤信夫工房
講 師：伊藤信夫氏(陶芸家 香川県陶芸協会会長 日本工芸会正会員)
定 員：中学生以上15名
募集期間：8月13日(火)～9月2日(月) 必着
参 加 料：1,000円(作品1点制作のための材料費等)

キッズワークショップ/現地研修会のお申し込み方法

各ワークショップごとに往復はがき(1枚に付き1家族まで)に①氏名(ふりがな)②住所③電話番号④学年⑤ご希望のワークショップ名と希望の日時を明記し、お申し込み下さい。(往復はがき1枚で複数のワークショップのお申し込みはできません。)[かがわ電子自治体システム]を利用したインターネットからのお申し込みもできます。いずれも応募者多数の場合は抽選となります。

学芸講座【研修会】

先着70名 聴講無料

◎『シリーズ「瀬戸内海 一海と人の歴史」(連続講座 全4回)』<各回ごとに要申込>

■第2回「瀬戸内をわたる殿様の船」

海の城ともいえる大名の船「御座船」。そのすがたや旅の様子とは。
日 時：7月28日(日) 13:30～15:00
講 師：御厨義道(当館専門学芸員)
募集期間：募集中、満員になり次第終了

■第3回「讃岐に来たる京の仏像」

海をはさんだ京とのかかわりを示す県内の仏像について調査成果から考えます。
日 時：8月24日(土) 13:30～15:00
講 師：三好賢子(当館専門学芸員)
募集期間：募集中、満員になり次第終了

講座・見学【香川県文化会館 芸能ホール】

先着100名 聴講無料

◎『文化会館一デザインを味わう』

文化芸術の拠点として誕生した県文化会館。随所にある魅力的なデザインをとりあげて徹底紹介。
日 時：8月3日(土) 13:30～15:30(見学含む)
講 師：田口慶太(当館主任専門学芸員)
募集期間：募集中、満員になり次第終了
※申し込みは下記手順で香川県立ミュージアムまで

学芸講座/講座・見学のお申し込み方法

電話・はがき・FAX・「かがわ電子自治体システム」を利用したインターネットから。
はがき・FAXの場合は、氏名、電話番号、ご希望の講座名を明記してください。

お問い合わせ先

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号 香川県立ミュージアム学芸課
TEL.087(822)0247 FAX.087(822)0049

●「かがわ電子自治体システム」を利用したお申し込み先
香川県ホームページ「電子申請・施設利用申込」

香川県ホームページ左列下段「電子申請・施設利用申込」から
「電子申請・届出サービス」をクリック

表紙作品紹介

猪熊弦一郎「Faces13 No.1(イサム・ノグチに捧ぐ)」

1989年 アクリル、カンヴァス 当館蔵

人物の顔は、猪熊弦一郎の晩年の作品テーマのひとつである。本作には、「イサム・ノグチに捧ぐ」というタイトルが付けられ、いくつもの顔のなかにイサム・ノグチの肖像が描かれている。20世紀を代表する彫刻家イサム・ノグチは、本作が描かれた前年の1988年に亡くなった。猪熊との間には、約40年間の交流があり、互いの芸術に刺激を与え合った。



©公益財団法人ミモカ美術振興財団

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5番5号
TEL.087-822-0002(代表) FAX.087-822-0043
http://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/



【分館】瀬戸内海歴史民俗資料館

〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL.087-881-4707 FAX.087-881-4784
http://www.pref.kagawa.lg.jp/setorekishi/



【分館】香川県文化会館

〒760-0017 高松市番町1丁目10-39
TEL.087-831-1806 FAX.087-831-1807

